

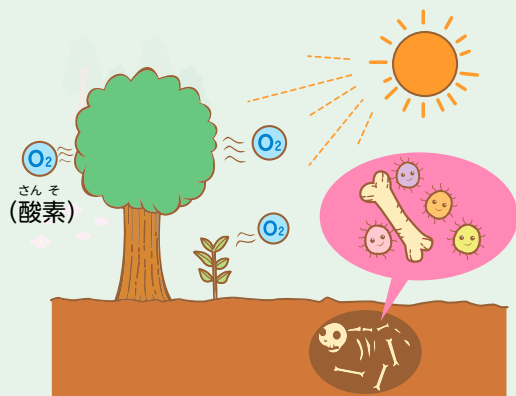
6 生物多様性って何？

地球上にはわかっているだけで約 175 万種もの生き物がいます。さらに、まだわかっていないものをふくめると、3000 万種以上の生き物がいるといわれています。これらの生き物たちは、森や川、海などいろいろな場所で互いにバランスを保って生きています。人間もふくめた、多くの種類の生き物すべてが、複雑にかかわりあって生きていることを「生物多様性」といいます。今、この生物多様性が人間の暮らしの影響により失われつつあります。このままでは、私たちは自然のめぐみを受けられなくなってしまいます。

生物多様性と自然のめぐみ

私たちの命と暮らしは、生物多様性がもたらすさまざまな自然のめぐみに支えられています。自然のめぐみは、大きく 4 つに分けることができます。

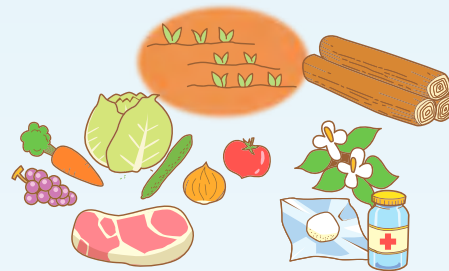
〇生き物の生命を支えてくれます。



例えば

- 森林など植物が二酸化炭素を取り入れ、酸素を出してくれます。
- ミミズのような小さな生き物が土を豊かにしてくれます。
- など

〇私たちの暮らしを支えてくれます。



例えば

- 食料や木材を供給してくれます。
- 医薬品のもとになる薬草を与えてくれます。また、薬品をつくるためのヒントを与えてくれます。

〇地域特有の文化の源となります。



例えば

- 祭り、そう祭、伝統行事に地域の決まった植物などが使われています。
- 森林や川など、私たちに安らぎを与えてくれます。

〇安全な暮らしをもたらしてくれます。



例えば

- 森は雨水をたくわえ、川の急な増水を防ぐとともに、安全な飲み水を確保してくれます。
- サンゴ礁が天然の防波堤となってくれます。

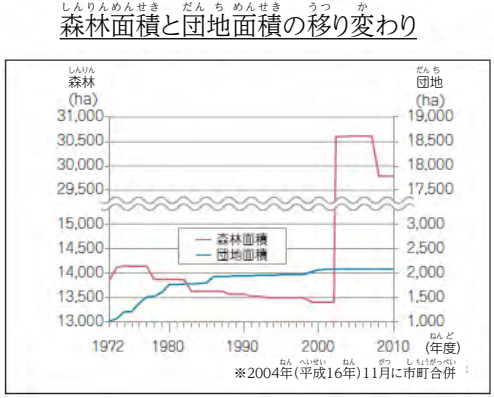
城山の森は空襲や大火の時に、延焼を食い止め、市民の生命や財産を守ってくれました。枯れた枝が見られるクスノキの大木は昭和 27 年の大火を止めた生き残りです。

せいぶつ た ようせい かん もんだい
生物多様性に関する問題

せいぶつ た ようせい かん もんだい
生物多様性が失われている原因のほとんどが、私たち人間の暮らしによるものです。

① 開発

道路や工場、住宅などをつくるために、生き物のすみかがこわされています。



鹿児島市では、昭和 30 年代から始まった団地造成による開発と市街化によって、団地の面積が増えることにともない、森林の面積が減少していきました。

② 管理不足・鳥獣による被害

人工林などの管理が不足しているため、そこをすみかとする生き物が減っています。また、イノシシやアナグマなどが畑などに近づきやすくなり、農作物への被害がでています。

鳥獣被害の現状（平成28年度）

鳥獣の種類	品目	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)
イノシシ	水稲、サトイモ、サツマイモ、桜島小みかん など	72.50	10,175
シカ	水稲など	6.82	715
タヌキ	ミカン類、スイートコーン、スイカ など	6.97	961
アナグマ	ミカン類、スイカ、スイートコーン など	15.02	2,315
カラス	ビワ、桜島小みかん、スイートコーン など	14.93	2,295
ヒヨドリ	ミカン類、野菜類など	14.52	2,308
合計		130.76	18,769



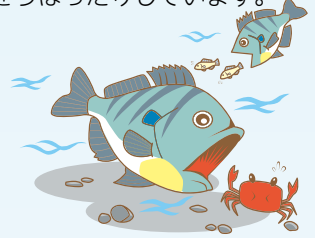
鹿児島市鳥獣被害防止計画
（平成 30 年度作成版）

③ 化学物質・外来種

農薬などの化学物質が、生き物に悪い影響を与えています。外来種が、その地域にもともいた生き物（在来種）を食べたり、すみかをうばったりしています。



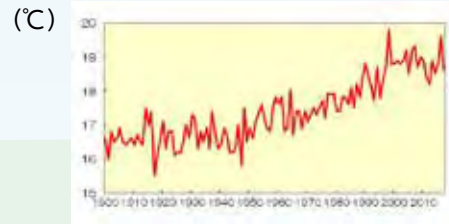
ブルーギル



松元ダムでは、外来種であるブルーギルやオオクチバス（ブラックバス）が確認されています。

④ 地球環境の変化

人間の生活が原因の地球温暖化などによって、植物の開花の早まりや紅葉の遅れ、動物の初鳴き（鳥や昆虫などが、一年のうち初めて鳴くこと。）の早まりなど生き物の行動・現象が変化しています。



鹿児島市の平均気温の推移

（年）

出典：気象庁「気象統計資料（年ごとの値）」から作成



⑤ 生活様式の変化

便利さや快適さを求める暮らしは、夜でも明るい街がつけられたりするなど、生き物の生活リズムの乱れを引き起こすことが考えられます。

⑥ 情報不足による影響

生き物の現状など生物多様性に関する情報が足りないことで、生き物のすみ場所を大切に作る取り組みなどが行われず、いつの間にか、いなくなってしまった生き物もいます。

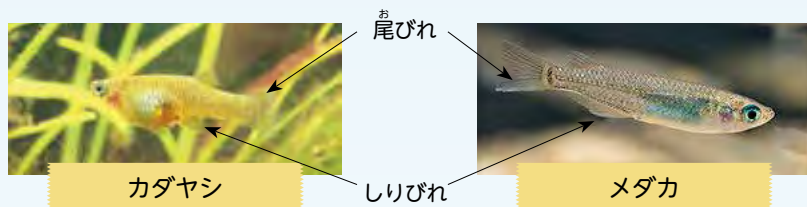


がいらいしゅ ●外来種

最近、人によって外国などから持ちこまれた生き物（外来種）が自然のなかで増えていますが、問題になっています。これらの生き物が増えると、もともといた生き物（在来種）が食べられたり、すみ場所がなくなったりします。その結果、もともといた生き物が減ることが心配されています。

①カダヤシ

北アメリカからきた外来種です。日本には蚊を駆除するために持ち込まれました。鹿児島市内でも確認されています。国の特定外来生物に指定されています。



カダヤシとメダカの見分け方

- ・カダヤシは、しりびれの長さが短く、尾びれが丸い。
- ・メダカは、しりびれが広く、尾びれが角ばっている。

②オオキンケイギク

北アメリカからきた外来種です。道路のしゃ面の吹き付けや園芸のために売られたもので、もともといた生き物を追いやってしまいます。鹿児島市内でも多くの場所で確認されています。国の特定外来生物に指定されています。



主な特ちょう

- ・花びらの色が黄色で、先端が4～5回不規則に分かれている。
- ・葉の両面に荒い白い毛がある。

※特定外来生物とは… 外来生物法により、生態系などに被害をおよぼすものとして指定された生き物です。すでに国内にすみついているものは、必要に応じて拡がるのを防いだり、取り除いたりしています。特定外来生物は、原則、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。

③ボタンウキクサ

熱帯地方からきた外来種です。日本には観賞用として持ち込まれました。鹿児島市内でも確認されています。国の特定外来生物に指定されています。



主な特ちょう

- ・何年も生き続ける
- ・日当たりのいい場所で見かけやすい。
- ・ウォーターレタスとも呼ばれています。

④ミシシippアカミミガメ（別名ミドリガメ）

北アメリカからきた外来種です。ペットとして飼われていたものや縁日などで売れたものが大量に捨てられて野生化しました。もともといたカメを追いやってしまいます。鹿児島市内でも確認されています。

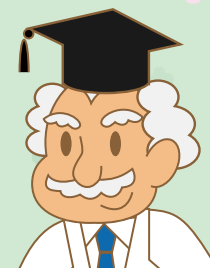


ミドリガメ

主な特ちょう

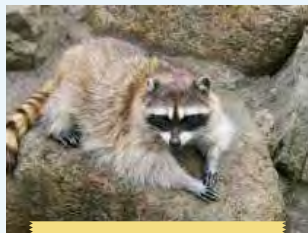
- ・側頭部に赤い斑紋がある。
- ・寿命が40年もあり、30cmほどの大きさになることもある。

人が放した生き物が外来種として影響を与えています。悪いのは外来種だけでなく、その原因をつくった人間なのです。カダヤシやオオキンケイギクなど、すでにすみついているものは、これ以上拡げないことが大切です。



⑤ アライグマ

北アメリカ・中央アメリカからきた外来種です。もともといた動物が食べられたり、農作物の被害などがあります。鹿児島市内では、平成31年2月末現在、確認されていませんが、始良市、霧島市、垂水市、指宿市、阿久根市で確認されています。国の特定外来生物に指定されています。

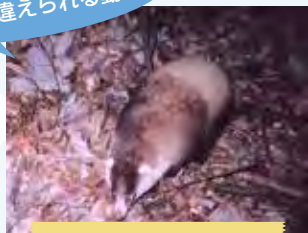


アライグマ

主な特ちょう

- ・全体的に灰色の体色
- ・尾が長く、しま模様
- ・木登りが得意
- ・基本的に夜間見られる。

よく間違えられる動物



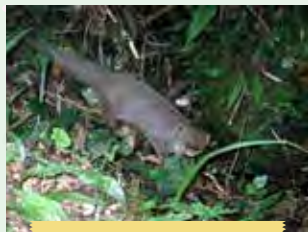
ニホンアナグマ

主な特ちょう

- ・鼻すじが白く、鼻が大きい
- ・尾が短く、ずんぐりとした体形
- ・木登りは行わない。
- ・穴ほりが得意
- ・基本的に夜間見られる。

⑥ フイリマングース

東南アジアからきた外来種です。鹿児島市では平成21年に喜入地区で初めて発見・捕獲されました。平成22年までに100匹以上が捕えられ、現在は確認されていません。国の特定外来生物に指定されています。



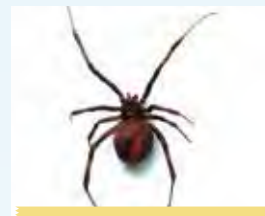
フイリマングース

主な特ちょう

- ・全体的に灰色の体色
- ・尾が長い。
- ・木登りは行わない。
- ・穴を掘ったりしない。
- ・基本的に昼間見られる。

⑦ セアカゴケグモ・ハイロゴケグモ

セアカゴケグモはオーストラリアなど、ハイロゴケグモは亜熱帯地方からきた外来種です。毒を持っており、かまれると健康被害のおそれがあります。鹿児島市内でもこれらのクモは確認されています。国の特定外来生物に指定されています。



セアカゴケグモ



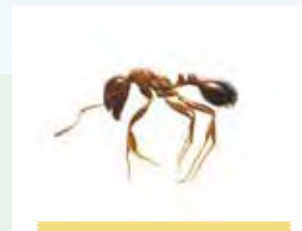
ハイロゴケグモ

ゴケグモ類の主な特ちょう

- ・腹面に赤色の斑紋
- ・腹部は大きな球状

⑧ ヒアリ

南アメリカからきた外来種です。毒を持っており、尾にある針でさされると健康被害のおそれがあります。鹿児島市内では、平成31年2月末現在確認されていません。国の特定外来生物に指定されています。



ヒアリ

主な特ちょう

- ・体が赤っぽくツヤツヤしている。
- ・腹部の色は暗め。
- ・働きアリの大きさが2.5mm以上6.0mm
- ・同じ群れのアリに大きさのバラツキがある。

特定外来生物は、紹介したものに、鹿児島市では、ブルーギル、オオフサモ、ナルトサワギクなどが発見されています。

